

MMGに向けて～授業のねらいを明確にした取組の実践を目指して～

柏市立旭東小学校長 為成 啓登

日々、社会に開かれた教育活動の実現に向けて、特色ある教育課程を編成していく必要性を切に感じている。昨年度の2学期より年間指導計画の見直しの時間を複数回確保し、全体研修会の時間においても職員全体で確認する時間をとってきた。なお、今年度は、学校経営重点の中にもMMGを重点項目の一つとして明確に位置付け計画してきた。

このMMGでは、各学年・各教科において目標に合わせた授業展開を中間報告できる場として考えている。また、授業の中で『学びスイッチ』の継続化を図りながらゴールの見える化を共有し、ICTの効果的な活用と工夫を両輪とし、準備してきた。

～令和5年度の学校経営重点目標～

- (1) 地域と共に歩む学校づくり
 - ・地域（保護者も含めて）に学校の様子がわかるシステムづくり
 - ・HP活用・スクリーン活用・学校行事の開催形態工夫・授業参観・懇談会の工夫（動画活用）
- (2) 家庭・地域との連携による協力体制の強化
 - ・安全確保，家庭学習など保護者・地域との連携を密に，積極的に協力依頼
 - ・ぐんぐんタイム，キャリア教育等の協力依頼
- (3) 授業力の向上を目指した研修の充実（今年度はMMGに向けての取組）
 - ・授業のねらいを明確にした取組の実践
 - ◎『学びスイッチ』を継続し，ゴールの見える化を共有
 - ◎ICTの効果的な工夫（いつ・どこで・どのように・意図を明確にして）
- (4) 特別支援教育の充実
 - ・支援が必要な児童についての共通理解を図り、全体での指導体制づくりの確立

授業者主導の授業づくりから「主体的・対話的で深い学び」を実現していくために

①ゴールの見える化（魅力的なゴール）を個別最適な学びにつなげる。

本校では、国語・算数の授業後の振り返りのことを『学びスイッチ』といい、ずっと継続して実践してきた。そのうえ学年にもよるが、各教科の授業の「まとめ」は、なるべく各自が自分の言葉で書くまとめ方をしてきた。また、単元の見通しを意識させることで、意欲の持続化を図りつつ、単元を通じて指導と評価の一体化を図ることを目指している。

②ICTの効果的な活用を図るため、場面に応じた適切な手段を用いる。

これまでの指導方法と新しい指導方法をハイブリットで用いていく。昨年度の「慣れる」から今年度は「積み重ねる」来年度は「使いこなす」へステップアップしていくことを目指している。

柏中学校区教育目標（コミュニティ・スクール共通目標）

地域に誇りを持ち、知性と徳性を備えた人間性豊かな児童生徒の育成

本校の学校教育目標

心身共に健やかで知性と徳性を備えた人間性・創造性豊かな児童の育成

↓

自ら学び、思いやり、たくましく生きる児童の育成



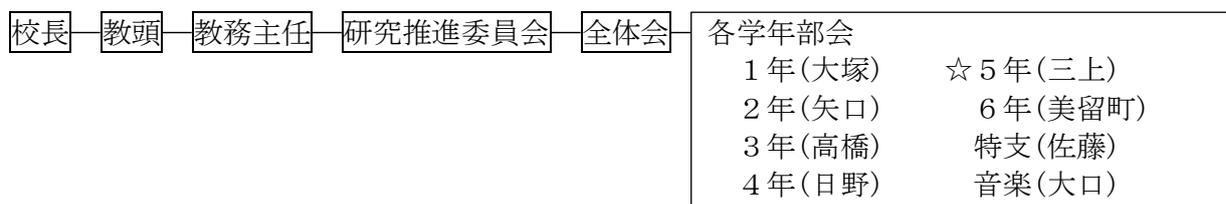
- ①自ら学び続ける子
- ・楽しい授業の構築
 - ・学びスイッチの継続
 - ・GIGA スクール
 - ・校内研修の充実
 - ・家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携
 - ・学習環境の整備
 - ・地域人材、施設と連携
 - ・外国語活動の推進

- ②思いやりのある子
- ・道徳授業の充実
 - ・読書活動の推進
 - ・縦割り活動の充実
 - ・積極的な生徒指導
 - ・体験活動の推進
 - ・福祉教育の実践
 - ・特別活動の充実
 - ・共通行動の取組
 - ・児童会企画の継続

- ③たくましく生きる子
- ・体育授業、行事の充実
 - ・ウィンターカップの継続
 - ・早寝、早起き、朝ご飯の推奨
 - ・外遊びの奨励
 - ・挨拶の励行
 - ・体力向上活動の推進
 - ・安心、安全な学校
 - ・食育指導の充実

令和5年度 校内研究・研修年間計画

1 組織図



2 学校教育目標について

自ら学び、思いやり、たくましく生きる児童の育成

「自ら学び続ける子」……進んで自分の考えを伝える子、学びを振り返る子、家庭学習を続ける子

「思いやりのある子」……自分を大切にすること、友達と助け合う子、進んで働く子

「たくましく生きる子」…規則正しい生活ができる子、体力作りに取り組む子、

健康と安全に気をつける子

3 本校の研究について

(1) 研究主題等について

【目指す児童像】

- ①自分の考えをもち、わかりやすく表現できる子
- ②相手の思いや考えを受け止め、認めることができる子
- ③仲間と学び合うことで、喜びや楽しさを感じることができる子

【研究テーマ】

主体的に学び、思考力・判断力・表現力等高め合う児童の育成
～各教科における ICT 活用を通して～

【研究仮説】

仮説 1	魅力的な単元のゴール(※1)を設定して、学習の見通しを持たせれば、主体的に学ぶ児童に育つであろう。(学びスイッチ)
仮説 2	ICTの良さ(※2)を生かした共有・比較の場を通して、学び合う良さが実感できれば、思考力・判断力・表現力が高まる児童に育つであろう。(ICT活用)

※1 「魅力的なゴール」とは

- ・児童が単元を通して、「進んで身に着けたい、達成したい」と思える到達目標。
- ・目標に向かって、学びを積み重ねていく意欲付けとなるものや見通し。

※2 「ICTのよさ」とは

- ・反復性 (Repeatability) ・共有性 (Sharability)
- ・双方向性 (Interactivity) ・比較性 (Comparability)

② ICT活用

『令和5年度版 柏市における1人1台端末の活用「柏市GIGAスクール」』を受けて、本校におけるICT活用のステップを設定し、段階的に活用能力の育成を図る。

	教科	ICT活用ステップ	柏市GIGA Study Plan
R3年度	国語科1年目	Step0 「まずはやってみる」	Step0 「いつでもちょこっと使う」
R4年度	国語科2年目	Step1 「なれる」	Step1 「すぐにでもどの教科でも誰でも生かせる」
R5年度	MMG	Step2 「積み重ねる」	Step2 「教科の学びを深める」
R6年度	国語科3年目	Step3 「使いこなす」	Step3 「教科の学びをつなぐ」

令和3年度を「Step0 まずはやってみる」として始め、今年度は「Step2 積み重ねる」にあたる。本校ではこれまで、学習時の自力解決活動において、ICT端末を積極的に活用してきた。本校の研究テーマである「思考力・判断力・表現力を高め合う児童の育成」の実現を目指すため、今年度は「共有・比較」の協働学習の場面において、ICT活用の可能性を広げていきたいと考えている。そして、様々な場面でICT活用を積み重ねることで、次年度の「Step3 使いこなす」に繋げていく。

(3) 昨年度の研究の概要

【めざす児童像】

- ①自分の考えをもち、わかりやすく表現できる子
- ②相手の思いや考えを受け止め、認めることができる子
- ③仲間と学び合うことで、喜びや楽しさを感じることができる子

【研究テーマ】

「思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究～国語科の教材研究の充実をめざして～」

【研究仮説】

魅力的な単元のゴールを設定し、伝え合うよさが実感できるような指導を工夫することで、思考力・判断力・表現力を身につけることができるだろう。

昨年度は、国語科の2年目の研究にあたる。上記を研究主題として、研修に取り組んできた。研究の取り組みにおける成果と課題、全国学力・学習状況調査の結果を以下にまとめた。

<成果>

- ・単元のゴールを明確に提示したことが目的意識をもつことに繋がり、児童の学習における主体性や達成意欲を大きく高めることができた。
- ・ゴールに向けた見通しや、道のり、手段等を具体的に示すことによって、児童（特に低位の児童）の学習への取り組みに不安感を除くことに繋がった。

- ・「伝え合う」過程には「どのように」という視点が備わるため、思考力・判断力・表現力が問われることになり、仮説は適していたと考える。どの学年の授業でも、児童達が試行錯誤して自分の考えをまとめたり、伝えたりする姿が見られた。
- ・伝え合う手段に ICT を積極的に活用したことで、共有、比較、双方向の交流に可能性を広げることができた。時間的・距離的な制約がなくなることで、伝え合いの方法も自由に設定することができた。

<課題>

- ・仮説の設定は有効であったが、ICT を取り入れる場面や伝え合いの方法によっては、必ずしも適切ではないこともあった。ICT を活用する場面を吟味して選択していく必要がある。
- ・思考力・判断力・表現力がどのように、どれだけ高まったかの検証方法について、客観的に成果を示すことが難しかったため、検証方法についても検討していく必要がある。指導と評価の一体化をさらに意識して、取り組めるとよいと感じた。
- ・コロナ禍における研修だったため、リモートでの参観方法を選択した。授業中の雰囲気はわかりにくい部分が多かったため、来年度は研修の参観方法を従来通りに行っていけるとよい。

<令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果より>

自校の学力は、ほぼ全国および千葉県平均よりも大きく上回っている。これは日頃の学習活動の中で、学んだことが定着している児童が多いと言える。このことから、数年に渡り、思考力・判断力・表現力等の育成を研究テーマにし、ICT 活用を積極的に学習に取り入れながら学習を進めている研究の成果が現れてきていることや全校で取り組んでいる家庭学習が児童に習慣化されていることなどが相互に関係し合って、結果として学力が向上したと考えることができる。しかし、国語の教科においては思考・判断・表現の本校の平均正答率が千葉県・全国よりも上回っているものの、思考力・判断力・表現力等の「B 書くこと」に関する問題に対しては、本校の平均正答率が千葉県・全国よりも下回っている。特に「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」の内容を苦手としている傾向が見られた。自分の考えを伝えるときには、図表やグラフ等の根拠を明確に提示して書き表し方を工夫できるように指導していく必要がある。算数においては、全ての評価の観点において、本校の平均正答率が千葉県・全国よりも上回っている。特に知識・技能の評価の観点においては、千葉県や全国よりも10%以上高い正答率を示している項目が9項目中5項目あった。このことから、学習の観点における知識・技能を身につけている児童が多いことがわかる。しかし、記述式の設問のやや正答率が低めとなっている。特に「求め方と答えを式と言葉を用いて記述する」や「理由を言葉や数を用いて記述する」の内容については、本校全体で意識して指導していく必要があると考える。